

January 2008

4号

かわせみ(日高市の鳥)

<http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/index.html>

埼玉医科大学

国際医療センターニュース

INTERNATIONAL MEDICAL CENTER NEWS



CONTENTS

2P 新年のご挨拶：病院長 松谷 雅生

診療科のご紹介：脳脊髄腫瘍科

3P 診療科のご紹介：脳卒中内科／画像診断科

4P 心臓病センターのご紹介：看護部

5P 冬本番！風邪の季節到来！！：薬剤部

6P 2階画像診断部門のご紹介：中央放射線部

7P 小児患者さんへの医療費給付制度について

『医療費助成制度のご案内』について

：総合相談センター・がん相談支援センター

8P 皆様からのご意見と当院の対応：診療サービス委員会
献血を実施しました：輸血・細胞移植部、医務課

9P 認定看護師のご紹介：鈴木 雅子・吉原みき子
サentakローズがやってきました

10P 婦人科腫瘍科が行う国際共同臨床試験

：婦人科腫瘍科教授 藤原 恵一

11P 救急外来からのお願い：救命救急科
国際医療センターが「チーム・バチスタの栄光」の映画に登場！

12P 市民公開がん医療講座一講演会と音楽のタペー開催
外来者用駐車場案内

©2008 映画「チーム・バチスタの栄光」製作委員会（日高キャンパス テレサホールにて）詳細はP11へ！

基本理念：患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療の提供をし、かつ最も高度の医療水準を維持する。

使命：当センターは、埼玉県全域を範囲とし、がん、心臓病に対する高度専門特殊医療に特化し、かつ高度の救命救急医療を提供する。

基本方針：患者中心主義（patient-oriented）を貫き、あらゆる面で“患者にとって便利”であることを主眼とし、患者ひとりひとりにとって最も適切な医療を提供する。

新年のご挨拶

皆様に新年のお祝いを申し上げます。

国際医療センターは昨年4月1日に開院し、当初の359床より432床（72%開床）の病院に成長いたしました。今年度は是非とも100%稼働（600床）を目標にし、さらに充実した病院運営を目指します。

包括的がんセンターでは、治療方針を関連診療科の医師、看護師、放射線治療技師等が参加するカンファレンス（近々ホームページに掲載）で検討しております。がんのリンパ節や骨などへの微少転移の診断に威力を発揮するPET/CT検査も軌道に乗り、近隣の病院からの検査依頼も多数受けております。

心臓病センターの活動は本号で紹介いたしております。県内の病院と密接に連絡をとりつつ、新生児の先天性心疾患から成人・高齢者の心臓病までを広く扱っております。

救命救急センターは重症救急疾患を治療する三次救急

病院長：松谷 雅生

施設として活動しております。脳卒中はセンター内の脳卒中センターで、手術治療、血管内治療および薬物治療の専門医が二十四時間体制で治療にあたります。急性心不全に対しては前記心臓病センターに収容致します。

地域住民の方や医療施設との連携については、月に一度の地域医療連携会議や市民公開講座（本号紹介）を通じて医療情報を共有しております。

病院を支える大きな部門としての看護部、薬剤部、ME部門でも専門あるいは認定資格も持つ職員を配置し、院内教育、学生教育に加えて外部の病院からの短期研修にも応じております。本号でも、小児救急看護認定看護師と感染管理認定看護師の活動を紹介いたします。

このように国際医療センターは、安全で適正な、あるいは最新の治療を提供しつつ、専門性の高い医療人を養成し、近隣の医療機関との協調関係を築いております。

診療科のご紹介

脳脊髄腫瘍科

ホームページ：http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/division_info/01.html

脳脊髄腫瘍科は、脳腫瘍、脊髄腫瘍を専門的に診療する科として、埼玉医大国際医療センター開院と同時に発足しました。9人の医師が診療していますが、そのうち小児に関しては小児脳腫瘍の専門家である小児科医が治療に当たります。脳腫瘍を専門とする小児科医が診療しているのは、おそらく日本では当科だけであろうと思います。病院長の松谷、科長の西川はそれぞれ頭蓋内胚細胞腫瘍、悪性神経膠腫等の悪性脳腫瘍のスペシャリストとして知られています。県内はもちろん全国より治療を希望される患者さんが集まります。セカンドオピニオンの依頼や他病院の医師から相談を受けることも多く、我が国ではやはり指導的な立場にあります。

手術件数は脳腫瘍、脊髄腫瘍を合わせ年間約90例です。手術に際しては、ナビゲーションシステム、蛍光診断、電気生理学的モニタリングなどを使って最大限の腫瘍摘出を目指して努力しています。また、手術中の出血を少なくするために脳血管内治療科の協力の元に術前腫瘍血管塞栓術をおこなったり、脳室内の病変に対しては神経内視鏡を用いたり、最新の技術を駆使して治療に当たっています。

しかし、脳腫瘍の治療は手術だけで終わりません。細かく分類すると脳腫瘍は100種類以上にもおよび、治療法も様々ですが、脳腫瘍のうちで最も多い神経膠腫のような悪性腫瘍は、手術だけでは治療が不十分であることが多く、手術後の治療が非常に重要です。具体的には化学療法、放射線治療が主となりますが、どの種類の治療薬をどの



くらいの量で、どのタイミングで行うか、あるいは放射線治療を行うべきなのかなど、専門的な知識がないと判断できません。そのため他施設から特に手術後の治療を依頼されることも多数です。患者さん一人一人に対し、経験豊富なスタッフが週に2回のカンファレンスを行い、治療方針を決定しています。

治療困難な脳腫瘍に対しては、新しい治療法を開発したり、日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）に参加し臨床試験に加わりながら、最新の治療法をチェックし最良の治療を行えるように常に考えています。特に、現在悪性神経膠腫の標準的治療として日本全国で使われるようになったテモダールという薬は、我々が中心となって治験を行い、昨年7月に認可されました。

脳や脊髄に腫瘍を患った方に対して、できる限りの治療をさせていただきます。

診療科のご紹介

脳卒中内科

ホームページ： http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/division_info/71.html

当科は教授（棚橋）から後期研修医まで8～10名の医師により構成されています。その特徴は脳卒中センターの一員として、専門科の垣根を越えたチーム医療を大切にしている点です。おもな対象疾患は脳血管障害などの神経救急疾患であり（表）、脳卒中外科・脳血管内治療科・リハビリテーション科と協力して診療にあたっています。

一方、救命救急科とのコミュニケーションにも努力し

ています。なかでも、地域の救急救命士とともに、Prehospital Stroke Life Support (PSLS) を一般市民への啓発活動として始めました。さらに、埼玉県西部地区の中核病院として近隣の医療施設との連携にも力をいれており、定期的に講演会や研究会を行っています。また、大規模臨床試験には医師主導型をふくめ現在7つの研究に参加しています。

診療実績（2007年4月1日～9月30日）

入 院		外 来	
疾患名	症例数	疾患（症候）名	症例数
急性期脳梗塞	210	脳梗塞後遺症	2,251
一過性虚血発作	19	生活習慣病	466
てんかん	8	頭痛	320
髄膜炎・脳炎	5	物忘れ	294
重症筋無力症	4	パーキンソン病	144
多発性硬化症	3	てんかん	107
ギラン・バレー症候群	3	その他	336
その他	5		

診療科のご紹介

画像診断科

ホームページ： http://www.saitama-med.ac.jp/kokusai/division_info/86.html

画像を用いて病気を検出・評価する部門です。場所はC棟2階にあります。主な検査は単純X線、透視検査、CT、MRI、血管造影などで、1.5TのMRIや64列MDCTなどの最新の機器が揃っています。

これらの検査の簡単な説明をします。単純X線は四肢や体幹などのあらゆる部分を評価するのに用いられます。比較的簡単に撮影できるので、一番よく行われる検査です。透視検査では造影剤という検査薬を用いて、単純X線写真では描出できない様な胃や腸の内部、尿路を詳しく評価するために撮影されます。CT、MRIはどちらも体の断面を描出する事ができる検査です。CTではX線を用いて描出します。MRIではX線とは異なる電波を用いるため、被曝はありません。これらの検査では最先端の画像解析技術を駆使しています。例えばMRIではMR spectroscopy(病変の成分を調べる検査)、MR angiography(血管を見る検査)や拡散強調画像(急性期の脳梗塞などを見る検査)などを用い、腫瘍や血管病変の診断に役立てています。また、CTでは三次元CTによる頭部や胸部、腹部の血管の三次元構築画像による評価を行い、心臓CTでは冠動脈の評価も行っていま

す。血管造影はカテーテルという管を患者さんの体内に挿入し、脳や心臓、その他の胸部や腹部の血管を詳細に評価するために用いられます。診断だけでなく、出血に対する塞栓術や、逆に血管閉塞に対する溶解術などの血管内治療を24時間体制で積極的に行っています。

神経、頭頸部、胸部、腹部、乳腺、循環器、骨髄、婦人科臓器、小児科疾患においては専門の医師が読影を行っています。また、関連する臨床各科とのカンファランスを定期的に行い、緊密な連携のもとにより良い診療が行えるように努めています。

当施設はPACS化により完全フィルムレスの運用となっています。撮影された画像は全てデジタルデータとして保存され、病院のあらゆる場所にある電子カルテ端末から瞬時に参照できるようになっています。

各部門の診療に役立つような、鮮明で質の高い画像検査結果を速やかに提供出来るように心掛けています。



心臓病センターのご紹介

看護部

心臓病センターには、外来、3つの集中治療室（小児ICU、CCU、CICU）、4つの一般病棟があります。外来は、心臓と脳卒中の診療室がありA棟2階にあります。先天性の心臓病、難治性の心不全、ペースメーカーなど専門外来があり、受診される患者さんが安心して検査・治療が受けられるよう説明、指導を行っております。



■心臓病（脳卒中）センター外来



■小児ICU、一般病棟

B棟2階には、小児ICUと一般病棟があります。ICUでは、生後、数日経過した小さい体ながらも病気と向き合う患者さんを医師、看護師が24時間体制で集中管理、看護ケアを行っております。

また、病棟には、患者さんが入院中にくつろげる場とし



■CCU

てプレールームが設置してあり数多くの患者さんが利用しています。患者さん、ご家族が満足いただけるよう看護をさせていただきますが、入院中、お困りのことがありますたらどんなことでもかまいませんので看護師にお声がけください。

CCUは、急性心筋梗塞、重篤な心不全の患者さんを収容し24時間体制で治療、全身管理、看護ケアを行っております。なかでも、心筋梗塞発症後、もっとも怖いといわれている重症不整脈をキャッチするため24時間心電図をモニタし早期発見に努め、迅速に対処しています。また、突然入院された患者さんの不安の軽減、プライバシーの保護、ご家族様の面会を配慮した入院生活援助を行っております。何かありましたらご遠慮なく看護師まで申してください。



■CICU

CICUは、虚血性心疾患、心臓弁膜症、動脈瘤、先天性心臓病など外科治療（手術前、手術後）の全身管理、看護ケアを24時間体制で行います。手術後、麻酔から覚醒後、人工呼吸器装着中、離脱後の呼吸療法、清潔援助、早期離床のための精神的援助などを行っています。なお、一般病棟と違い特殊な環境で治療が優先されることや、感染対策上ご家族様の面会を制限させていただいております。ご理解のうえご協力をお願いします。

ICUに隣接する一般病棟では、患者さんが1日でも早く社会復帰されるために心臓リハビリテーションや日常生活指導を行っています。

私たち看護師は、患者さん・ご家族の方が満足していただける看護実践を目指しております。



冬本番！風邪の季節到来！！

薬剤部

いよいよ冬本番、風邪の流行する季節となりました。

一般に「風邪」と呼んでいますが、正確には「風邪症候群」といい、気道の炎症によるさまざまな症状の総称です。毎年、流行するインフルエンザと風邪とは別物であり、インフルエンザは風邪薬で治すのはムリですので、すぐに病院に行きましょう。

風邪の予防や回復のためには部屋の湿度を上げることが有効です。加湿器などを使い、60%～80%に保つとよいでしょう。

「総合感冒薬」は風邪の初期症状であればこれで十分ですが「総合」というだけあって、「鼻にも、のどにも、熱にも」というように、数種類の薬が複合的に入っているため、

鼻水だけおさえたくても、必要のない解熱剤も飲んでしまうことになるのです。風邪薬は風邪の諸症状を緩和するもので、市販の風邪薬を買うなら、発熱、鼻水、鼻づまり、せきなど自分のいちばん強い症状に合わせて選ぶほうがよいでしょう。ただし、用法・用量は必ず守りましょう。早く治したいからといって決められた用量以上に服用すると、思わぬ副作用を招くこともあるため、たいへん危険な行為です。

また、抗生物質は細菌の増殖を抑える薬であり、風邪のウイルスそのものをやっつけてくれるものではありません。風邪で体力の落ちた体を細菌の進入や増殖から守るために（肺炎などの2次感染を防ぐ目的で）処方されます。

熱、関節の痛み

解熱鎮痛剤

非ピリン系

アセトアミノフェン
アスピリン

ピリン系

イソプロピルアンチピリン

鼻水、鼻づまり、くしゃみ

鼻炎用内服薬、点鼻液

抗ヒスタミン剤

マレイン酸クロルフェニラミン
ジフェンヒドラミン

抗コリン剤

ベラドンナ総アルカロイド
ヨウ素イソプロパミド

咳、たん

鎮咳薬

交感神経興奮剤

塩酸メチルエフェドリン
リン酸ジヒドロコデイン

去痰剤

塩酸ブロムヘキシン

多くの風邪薬には解熱作用のある成分が含まれ、他の薬の作用を増強する場合があります。また、血管を収縮させたり心拍数を増加させたりする成分が含まれている場合もあります。そこで、市販の風邪薬を服用しても改善せずに病院へ行ったときには、これまでに飲んだ風邪薬やさらに普段常用している薬を医師に説明するとよいでしょう。

風邪をひいた時は栄養補給が大切です。そこで栄養ドリンク剤も上手に活用したいものですが、栄養ドリンク

剤の多くにはカフェインが含まれている場合があります。風邪薬にもカフェインが含まれているものもありますのでカフェインの過剰摂取にならないよう飲み合わせに注意しましょう。

風邪を治す近道は睡眠です。そのため、多くの風邪薬には体を休ませることを目的に、あえて眠くなるような成分が含まれています。市販の風邪薬の注意書きに服用後の車の運転や機械の操作をしないようにと書かれているのはそのためです。

最後に、最も重要で簡単な予防策は「手洗い・うがい」です。日ごろから手洗い・うがいをマメに行い、これから季節を乗り切りましょう。

※ 当院は地域三次救急医療機関として重症患者さんの治療を最優先しています。

従って、一般的によくみられる「かぜ症状」で緊急度・重症度が低いと思われる場合は、他の医療機関に受診されるか、来院されても長時間お待ちいただくこともあります。



2階画像診断部門のご紹介

中央放射線部

2階画像診断部門は、C棟2Fの約半分を占める大変大きな部門です。

正面玄関よりエスカレーターを上がっていただくと、画

像診断受付がございます。

ここより、各検査の受付を行って検査室にご案内をいたします。



<画像診断受付>



<待合>



<更衣室>

また、2F画像診断部門は、様々な最新鋭の画像診断装置が多数導入されています。

フロアの中は壁や扉がなく、複数の検査がある時は他の検査室への移動もスムーズに行えます。

検査に関して何か分からないこと、ご質問等がありましたら何なりとお近くの職員や担当のスタッフにお尋ね

下さい。

我々スタッフも患者さんの為に日々努力し、診療に役立つ画像を提供していこうと考えております。

それでは、簡単ではございますが、フロア案内図を元に各セクションの装置の紹介をいたします。

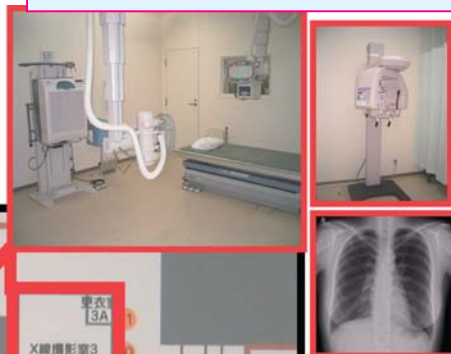
●CT検査室

マルチスライスCT2台（64列・16列）を駆使して、全身の画像を作成しています。
特に心臓、小児血管、頭部血管等では侵襲度が低く多くの情報を提供することが出来ます。



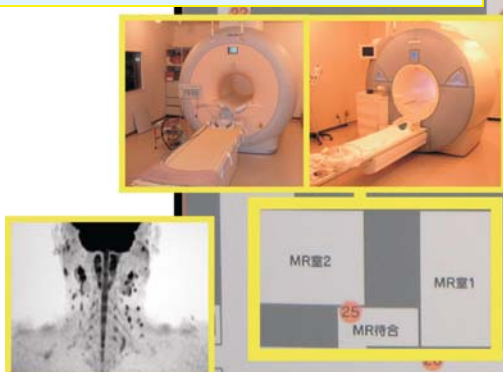
●一般撮影室（レントゲン）

胸・腹部、骨の撮影を行います。
歯列や聴器を撮影する専用の装置もあります。



●MRI検査室

1.5T（テスラ）の最新鋭の装置が2台導入されています。
心臓の検査や脳の神経線維束の描出（トラクトグラフィー）を行う事も可能です。



待合

CT室1

CT室2

X線撮影室5

X線撮影室6

X線撮影室7

X線撮影室3

X線撮影室2

X線撮影室1

更衣室1A

更衣室2B

更衣室2A

更衣室1B

更衣室2C

更衣室2D

更衣室2E

更衣室2F

更衣室2G

更衣室2H

更衣室2I

更衣室2J

更衣室2K

更衣室2L

更衣室2M

更衣室2N

●透視検査治療室

バリウムを使った胃や腸の透視検査や、泌尿器の検査を行っています。



●乳房撮影室（マンモグラフィー）

最新鋭のデジタル乳房X線撮影装置です。
あらゆる病変に対応できます。



小児患者さんへの医療費給付制度について

総合相談センター・がん相談支援センター

小児医療は治療が長期間にわたる傾向があることや、医療費の負担が高額になる場合もあるため、ご家族の経済的な負担も大きいのではないのでしょうか。そこで、今回は特定の疾患にかかる医療費を公費で負担する『小児慢性特定疾患医療給付制度』と、手術などの外科的な治療にかかる医療費の一部を公費で負担する『育成医療』の2つの制度についてご説明いたします。

◎「小児慢性特定疾患医療給付制度」とは

小児慢性疾患のうち、国が指定した疾患（小児慢性特定疾患）の診療にかかる費用などを県の公費で負担するものです。

対象になる人は？

- ① 小児慢性特定疾患の治療を受けている方。
※小冊子「医療費助成制度のご案内」P17の表1 参照。
 - ② **新規申請は18歳未満まで。**（ただし、**受給者証をお持ちの方**で、18歳を過ぎてもお治療が必要な場合には20歳未満まで延長することが可能。）
 - ③ 国民健康保険等、何らかの健康保険に加入している方。
 - ④ 他の医療給付制度で給付を受けていない方
- ※上記①～④の全てに該当する方が対象になります。

◎「育成医療制度」とは

身体に障害または疾病があり、手術や治療により改善が見込まれる場合、医療費の一部を公費で負担するものです。

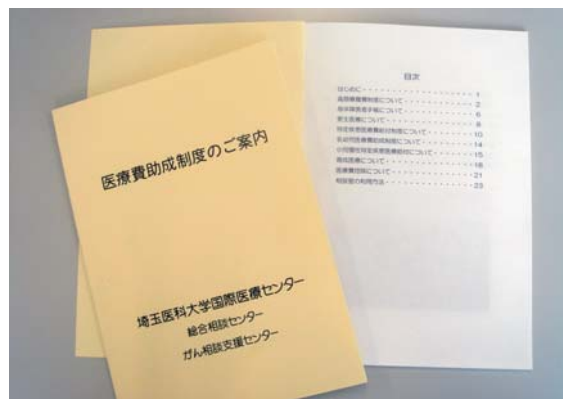
対象になる人は？

- ① **18歳未満であること。**
 - ② 現在身体に障害があるか、または現存する疾患があつてそのまま放置すると将来一定の障害を残すと医師により認められていること。
 - ③ 手術などの外科的な治療などによって、確実な治療効果が期待できること。
- ※上記①～③の全てに該当する方が対象になります。（一定以上の所得がある世帯は、対象外となる場合があります）

※ **まずは患者さんに小児慢性特定疾患医療給付制度や育成医療が該当するかどうか、担当医にご確認ください。**
対象となる疾患・申請方法・医療給付の内容・費用の負担については、当センターで発行している小冊子『医療費助成制度のご案内』をご参照ください。

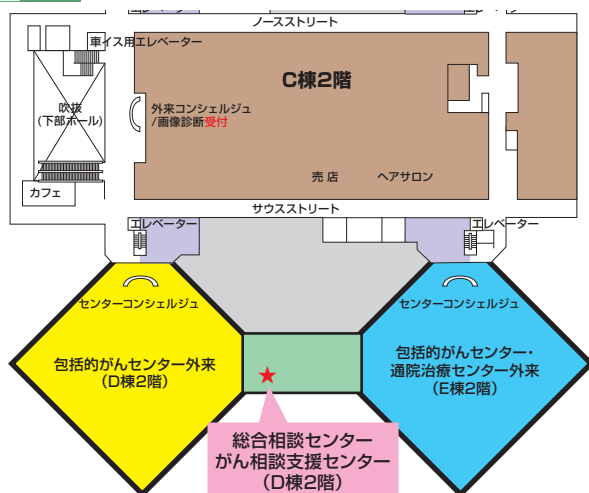
『医療費助成制度のご案内』について

この度、総合相談センター・がん相談支援センターでは『医療費助成制度のご案内』の小冊子を作成いたしました。この冊子は、入院の際にお渡しする「入院書類」に含まれておりますので、ぜひご活用ください。なお、各コンシェルジュでも、同冊子を配布しております。また、制度の利用方法や医療費に関するご相談等がございましたら、ソーシャルワーカーにお問い合わせください。



総合相談センター・がん相談支援センターの場所について

D棟2階



相談センターをご利用いただくには…

- ◇ 総合相談センター、がん相談支援センターで相談日時をご予約ください。
- TEL.042-984-4106 （総合相談センター直通）
- TEL.042-984-4329 （がん相談支援センター直通）
- ※ お急ぎの場合は直接おいで下さい。

皆様からのご意見と当院の対応

診療サービス委員会

ご意見：健常者が身障者専用の駐車場を使用している。

当院の対応：身体障害者手帳をお持ちの方には、肢体不自由のほか次のような障害の患者さんがいらっしゃいます。

- | | |
|-------------|------------|
| *咀嚼機能障害 | *音声・言語機能障害 |
| *平衡機能障害 | *聴覚障害 |
| *呼吸器機能障害 | *肢体不自由 |
| *心臓機能障害 | *腎臓機能障害 |
| *膀胱又は直腸機能障害 | *小腸機能障害 |

駐車券の検印の際には身体障害者手帳を確認させて頂いておりますので、皆様のご理解をお願い申し上げます。
皆様方のマナーある利用をお願い致します。



ご意見：老眼鏡を設置してほしい。

当院の対応：アイメガネ日高店様より老眼鏡を26セット寄付して頂きました。
各受付に設置致しましたので、ご利用下さい。

これからも病院機能の向上及び患者サービスに努めてまいります。ご意見ありがとうございました。

ご意見：病棟でお水が飲みたい

当院の対応：病棟の食堂に給水器が設置されました。
冷水・お湯がご利用できます。



献血を実施しました

輸血・細胞移植部、医務課

当院の社会貢献の一環として、2007年11月30日（金）に埼玉県赤十字血液センターによる献血を日高キャンパスで実施致しました。117名の教職員、医療従事者、学生等も協力致しました。

今後も引き続き実施していく予定です。



小児救急看護認定看護師のご紹介

こんにちは、『小児救急看護認定看護師』です。

国際医療センターニュース3号でも紹介させて頂きましたが、“認定看護師”の目的とは、『特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践ができ、看護現場における看護ケアの広がりや質の向上をはかる』とされています。

現在、救急外来を受診するお子様やご家族への対応が社会問題となっています。その背景には、小児科医の不足、家庭での育児の問題、地域の小児救急医療体制の問題、など様々な要因があるといわれています。『小児救急看護』はこのような社会的な要請に応えることを目的としております。

『小児救急看護認定看護師』の役割について

① 初期（入院治療を必要としない状態）～二次救急（入院治療を必要とする状態）において、お子様の受診時や電話対応で、優れたアセスメント能力を持って、救急外来受診を必要とする子どもと家族のニーズに対応し、適切な看護を提供できることです。救急外来を受診する子どもの多くは6歳以下であるといわれ、その発達段階では自ら症状を訴えることができません。子どもの特徴として急激に症状が変化することがあり、私たちは子どもの言葉にできないサインを受け止め、専門的な知識と技術をもって看護を提供していきます。

小児救急看護認定看護師：鈴木 雅子

② 三次救急（高度医療を必要とする状態）で、適切かつ確実に子どもの発達に応じた救命救急処置を含めた看護を提供できることです。

③ 救急外来を受診する子ども・家族への指導を通して、家庭の育児力の向上に対する社会資源となることです。子どもは、発達の特徴から免疫能の獲得過程（感染症に対する抵抗力を獲得する現象）であること、家庭内での事故が多く予防やその後の対応が大切であることなどの情報を提供させていただきます。

④ 子ども虐待を早期に発見し適切な介入を通し、子ども虐待の悪化を予防することです。

私たちには、多くの役割があり活動の場は、病院内にとどまらず子どもたちが生活している地域社会も含まれています。いかなる場所・時間・状況においても『子どもの権利』を基盤として、お子様の健やかな成長発達のためにご家族を含めた支援をしていくことを目標と考えています。当院に入院・通院されているお子様やそのご家族だけでなく、子どもに関する疑問・質問・相談などございましたら、お気軽にお声をかけて頂きたいと思います。



感染管理認定看護師のご紹介

私は日本看護協会より感染管理認定看護師としての認定を受け、現在は感染対策室に勤務をしております。

病院における感染症は主に合併症であり感染症を“ゼロ”にすることは不可能ではありますが“ゼロ”に近づける努力が必要です。感染管理認定看護師の業務は施設全体の感染管理を行うことであり、感染から「患者さんを守ること」のみでなく「病院で働くすべての人と訪問者を守ること」です。このことを念頭に置き、安全な環境を提供することを目指して活動を行っております。

そのためには、感染管理に対する施設内の職員の理解や協力だけではなく、患者さんやご家族、ご面会の方々等のご協力が不可欠であり、開院から現在まで多くの方々のご支援をいただきながら活動をして参りました。

感染管理認定看護師：吉原みき子

施設内における感染防止のための教育・啓発・改善活動は、感染対策チームや各診療科の感染対策実務者（医師）、感染制御リンクナース（看護師）そして他の専門領域の専門・認定看護師と連携をしております。また感染は医療安全の一環であるとして、国際医療センターの開院時より医療安全対策の担当者と協同し、常に患者さんに安心・安全で質の高い医療を提供できるように感染管理の立場で努力をしております。

今後とも国際医療センターの感染管理にご理解、ご協力をお願い致します。



サンタクロースがやってきました！

2007年12月21日、小児病棟にサンタクロースがやってきました。小児の患者さんひとりひとりにプレゼントが贈られ、たくさんの笑顔があふれる一日でした。

財団法人がんのこどもを守る会（のぞみ財団）、スターバックスコーヒージャパンのご協力により、このような

クリスマス会が開催されましたことを、紙面を借りてお礼申し上げます。



婦人科腫瘍科が行う国際共同臨床試験

婦人科腫瘍科教授：藤原 恵一

国際医療センターが開院して10ヶ月が過ぎようとしています。おかげさまで婦人科腫瘍科の業務もだんだんと軌道に乗ってきました。

婦人科腫瘍科では日常診療をハイレベルにすることを第1の目標に掲げています。それに加えて婦人科がんに対する新しい治療法を開発することが私どもの重要な使命の一つであると考えています。この目的を達成するために私どもは国際的な臨床試験に参加しております。

臨床試験とは

新しい治療法を開発には、「臨床試験」が欠かせません。「臨床試験」は新しい治療法がこれまで行われてきた「標準治療」に比べてより有効であるか、安全性に問題がないかどうかを確認するために行われます。「臨床」試験ですのでもちろん患者さんの協力なしにはできません。したがって、患者さんの人権を侵害しないような倫理的配慮が行われているかどうか、医学的に問題のない方法であるかどうかを数多くの専門家が検討した上で行われます。

国際共同臨床試験参加にいたった経過

つい最近まで日本ではこの「臨床試験」は基礎医学研究と比べて軽視されてきました。一方欧米先進諸国では「臨床試験こそが新しい標準治療法を確立するための唯一の方法である」という考え方が定着し、例えば米国では30年以上にわたって国を挙げて臨床試験を支援してきた歴史があります。この遅れを取り戻すために、2001年から私も婦人科腫瘍専門医の有志が米国のGynecologic Oncology Group (GOG; 婦人科腫瘍研究グループ)に参加するための準備を開始し、2003年から日本の患者さんとともにGOGの試験に参加するようになったのです。GOGは1970年に設立された婦人科がんの特化した臨床試験研究グループで、これまでに婦人科がん分野で数々の標準治療を打ち立ててきました。

GOG試験に参加することにより国際水準の臨床試験の方法論を学ぶことができ、それを日本の婦人科腫瘍臨床試験グループ(JGOG)の組織作りに生かすことが可能となったのです。さらにこれがきっかけとなって、米国、ヨーロッパ、カナダ、オーストラリアなどの婦人科腫瘍臨床試験グループが共同で組織しているGynecologic Cancer Intergroup (GCIG)への参加の機会を得ました。GCIGでは1993年以来国際共同臨床試験を行っており、多国籍で臨床試験を行う場合のノウハウを学ぶことができたのです。

なぜ国際共同臨床試験が必要なのか

臨床試験の究極の目的は新しい標準療法の開発です。

それには現在の標準治療との間に「比較試験」を行う必要があります。それには、数百人から数千人の患者さんの参加協力が欠かせません。これを一国でまかなおうとすると何年もかかってしまい、現在の化学の発展に追いつくことが出来ないのです。したがって、一日も早く結論を出し患者さんに還元することが出来るためには国際共同試験が必要なのです。

これまでの実績

現在JGOGが中心となって卵巣明細胞癌という抗がん剤が効きにくい腫瘍に対して最適な治療を探索するための比較試験が行われていますが、これはGCIGに参加することによって実現した国際共同試験なのです。また、GOGとの共同試験でアバスチンという薬の卵巣癌適応取得を目指した試験が始まりました。これは、我が国で初めての国際共同・医師主導試験で日本中から注目をされています。

このように婦人科腫瘍科では、国際医療センターの名前にふさわしい活動を通じて、婦人科がん患者さんのための臨床試験を行っております。担当医から臨床試験の説明があると思いますが、患者・家族の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。



写真

2007年10月にベルリンで行われたGCIG会議の様様。癌研究発祥の地であるウイルヒョウ研究所博物館内の会議室には第二次世界大戦による破壊の名残をとどめていた。

救急外来からのお願い

救命救急科

診療科長：根本 学

当院は地域三次救急医療機関として重症患者さんの治療を最優先しています。治療の優先順位は、

1. 緊急度・重症度が高い（生命を脅かすような疾患あるいは高い死亡率が予測されるような外傷で、すぐに治療を開始しなければ循環、呼吸、あるいは神経学的障害の進行を防ぐことができない）患者さん
2. 迅速な対応が求められる（あらゆる疾患や外傷で治療がすぐに開始されなければ重症度が進行する、あるいは合併症の発生の危険が高い）患者さん
3. 直ちに対応する必要性が低い（あらゆる疾患や外傷ではあるが、更に重篤な疾患や合併症発生の危険性が低い）患者さん

の順になります。

緊急度・重症度が高い、あるいは迅速な対応が必要な患者さんのほとんどは救急車で搬送されます。さらに、治療には2～3時間近くかかり、緊急手術になることも希ではありません。従って一般的によくみられる「かぜ症状」や「下痢」、「指先の切り傷」や「打撲、ねんざ」など緊急度・重症度が低いと思われる場合は、来院されても長時間お

待ちいただくこともあります。また、一般小児科、皮膚科、耳鼻科、眼科、泌尿器科等の専門的な治療は一部を除き行えませんので応急処置となります。そのような場合には近隣の休日・夜間診療所あるいは救急告示病院を紹介させていただきます。

診察の結果、入院治療が必要な場合は入院していただきますが、症状が回復し、近隣の医療機関での治療が可能と判断した場合は転院していただくことになります。当院での入院期間は症状にもよりますがおおむね2週間程度となります。

当院は西入間、埼玉西部、坂戸・鶴ヶ島、比企・東松山地域を主な管轄とした三次救急医療機関であり、地域重症救急医療における最後の砦としてその責務を果たす使命があります。何卒、ご理解ご協力の程、宜しく願います。

※ 地域三次救急医療機関（救命救急センター）

脳卒中や急性心筋梗塞、生命危機に陥った、またはその可能性が高い重症外傷を常に必ず受け入れ、高度な専門的治療を実施する医療機関

国際医療センターが「チーム・バチスタの栄光」の映画に登場！

公式サイト：<http://www.team-b.jp/main.html>

事務部広報担当

2008年2月9日（土）全国公開される、竹内結子主演、阿部寛共演の東宝映画「チーム・バチスタの栄光」（監督：中村義洋）の撮影が、本学国際医療センターをメイン舞台として日高キャンパス内で行われました。

昨年10月7日のクランクインから日・祝日を中心に延べ8日間（11月11日迄）にわたり敢行されました。映画の随所に見慣れた光景が映っているかも知れませんか。

〈表紙写真：左から阿部寛、野際陽子、竹内結子〉



©2008 映画「チーム・バチスタの栄光」製作委員会

©2008 映画「チーム・バチスタの栄光」製作委員会

市民公開がん医療講座－講演会と音楽のタペーが開催されました

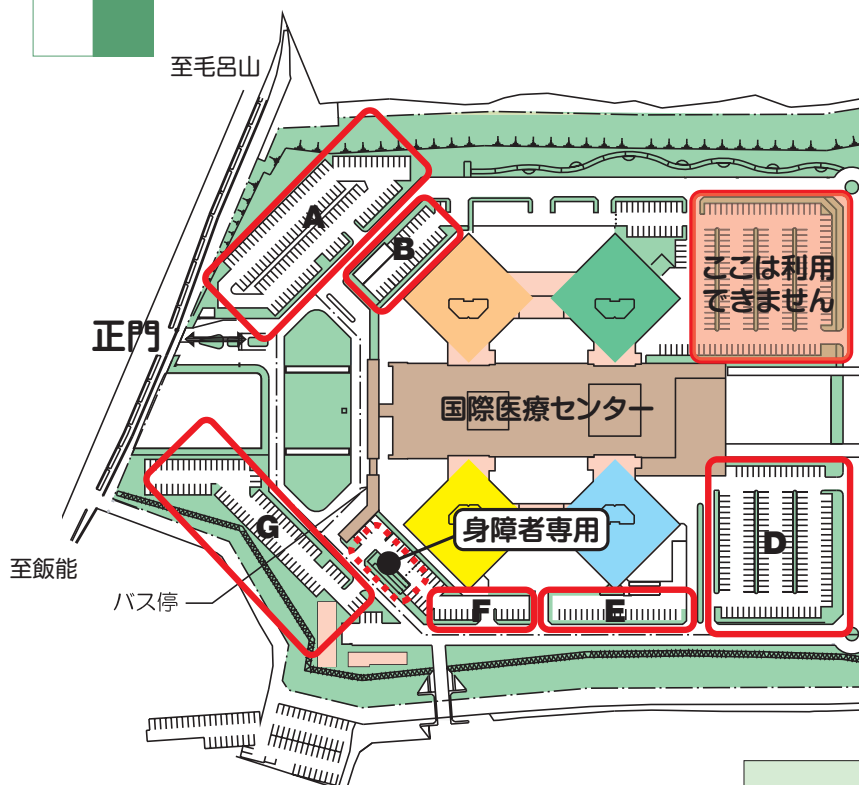
2007年12月22日（土）、国際医療センター玄関ホールで、クリスマスコンサートと公開講座「病院の上手なかかり方」が、包括的がんセンター・乳腺腫瘍科 佐伯俊昭教授の司会により開催されました。ピアニスト 影山順子さんの伴奏にソプラノ歌手 筒井一二三さんの美しい歌声がホ

ールに響きました。続いて、乳がん患者会「あけぼの会」会長 ワット隆子さんによるユーモア溢れる貴重なご講演をいただきました。

入院患者さん・ご家族をはじめ大勢の方々に、少し早いクリスマスをお届けすることができました。



外来者用駐車場案内図



※ 案内図上のA・B・D・E・F・Gが外来者の駐車場になります。なお、各ゲートの入り口で駐車券をお取り下さい。

注）病院敷地内周回道路に路上駐車されますと救急車の安全走行に支障が生じます。ご来院の際は『外来患者さん専用駐車場』をご利用下さいますようお願い申し上げます。

国際医療センター内の「外来者用駐車場」は下記のとおり「有料」となりましたのでご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

記

開始日：平成19年12月1日（土）

料 金：1時間未満「無料」

：1時間以上8時間迄、200円

：以後、1時間毎に100円加算

※ 尚、障害者手帳受給者および車椅子利用者の方は、この限りではありません。総合（C棟1F）および外来（C棟2F）の各コンシェルジュで「検印」いたします。

埼玉医科大学国際医療センターニュース

January 2008 第4号【院内配布用】

編集・発行 埼玉医科大学国際医療センター総務課

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根1397-1

TEL：042-984-4128

FAX：042-984-0432

発行責任者

尾本 良三

発行日

平成20年1月30日

※本紙記載の写真・記事の無断転載および、複写を禁じます。